



いかだに のってみよう in 嵐山!!



嵐山どんぐり©つやまあきこ

日時：2011年10月26日（水） 13：00～

※小雨の場合は開催します。但し各種警報発令時、河川の流況によっては中止いたします。

場所：京都市右京区嵯峨天龍寺 渡月橋北詰上流 大堰川左岸河川敷

13：00～15：00 大堰川の河原でいかだの試し乗り

参加費無料（試乗記念木製コースター進呈）

大堰川（桂川）のいかだの歴史は古く、約1200年前の平安京造営までさかのぼります。ここ嵯峨嵐山は丹波木材の中継所として栄え、多くのいかだが大堰川を行きかいました。今回は、大堰川のいかだを再現し、いかだの試し乗りをおこないます。いかだを初めて見る方は、ほんまもんのいかだの乗り心地を味わいながら、いかだが懐かしい方は、遠い昔に思いをはせながら、いかだに乗ってみませんか？

●お問い合わせ

亀岡市文化資料館 TEL：0771-22-0599 FAX：0771-25-6128 E-mail：bunka-siryoukan@city.kameoka.kyoto.jp
URL：http://hozugawa.org/program/ikada.html

主催：京筏組（保津川筏復活プロジェクト連絡協議会）

京都府南丹広域振興局 亀岡市文化資料館 南丹森のエコミュージアム 特定非営利活動法人プロジェクト保津川
保津川の世界遺産登録をめざす会 株式会社アオキカヌーワークス 京都学園大学歴史民俗学専攻
天若湖アートプロジェクト実行委員会 桂川流域ネットワーク 森林環境ネットワーク カッパ研究会
京都大学生存基盤科学研究ユニット・東南アジア研究所

協力：同志社大学 2011年度プロジェクト科目「京の筏を復活させよう！～保津川筏復活プロジェクト～」
嵐山通船株式会社 保津川遊船企業組合

助成：花王・コミュニティミュージアム・プログラム 2010～2011
京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金

こころを整える～文化発心 第26回国民文化祭・京都2011



京都府地域力再生活動

京都・大堰川の筏流し

かつて、大堰川(桂川)には丹波山地で伐り出された材木を運ぶ筏流しが盛んにおこなわれていました。その歴史は古く、奈良時代にまでさかのぼるといわれています。

大堰川の筏流しは、材木や商品の運搬によって京の都の人々の暮らしを支えた一方で、たとえば足利尊氏による天龍寺造営や豊臣秀吉による大坂城や伏見城築城など、その時代の大事業においても大きな貢献を果たし、時の権力者からも特別な地位を認められてきました。江戸時代末期には経済の発達にともなって輸送も飛躍的に増加し、最盛期には毎年 60 万本もの材木が京都・大坂に送られ、大堰川流域は大きく栄えることとなります。

半世紀ぶりの筏復活をめざして

古代から近世にかけて大きく栄えた大堰川の筏流しですが、明治・大正期の山陰本線の開通や国道の整備によるトラック輸送の普及とともに次第に衰退し、戦後しばらくして完全に途絶えてしまいます。現在、流域にご健在の元筏士の方々も数名となり、貴重な伝統技術とともに、筏の記憶も、今まさに途絶えようとしています。そこで、2008年に約 60年ぶりに保津大橋(亀岡市保津町)から、かつて筏の中継地であった山本浜(同篠町)まで、筏流しを復活させることに成功し、2009年には保津峡・落合から嵐山までの筏流しが実現しました。また 2011年 9月、保津川下り乗船場付近の河川敷において初めて一般試乗会を行い、約 230名の参加者でにぎわいました。

今回も、筏の試乗会を行います。今まで見ることしかできなかった大堰川の筏にじかに触れてみてください。この貴重な歴史遺産を多くの方が体験し、かつての流域を結ぶ川の営みを実感していただくことで、「筏がつなぐ歴史の記憶」を甦らせたいと考えています。



渡月橋と筏の風景 (絵葉書/昭和初期/亀岡市文化資料館蔵)



保津峡を下る筏 2009年 9月 9日



保津川での試乗会 2011年 9月 10日

会場案内図

JR 嵯峨嵐山駅

野宮神社

嵐電・嵐山駅

天龍寺

保津川下り下船場

嵐山通船

渡月橋

中之島公園

会場予想図

渡月橋を見ながら
いかだにのってみませんか!

国民文化祭・京都 2011
PR 隊長・まゆまる

※試乗時、足元がぬれますのでご了承ください。